

石坂常堅の星圖

On the Isizaka's Star-Map.

中川登代雄 Toyoo Nakagawa

今回、私が偶然入手した江戸時代の上記星圖に就いて、少し知る所を記したいと思ふ。これは、昭和十七年一月十日土曜日なので、午後、退廳後、神田の或る古本屋で、偶然、唯、古い星圖が有つたので、購入し、歸宅後種々調査した所、珍しい星圖であると思はれるので、御報告申上げる次第であります。

この星圖に關し、文獻は、小野清著“天文要覽”の169頁に「石坂常堅の星圖に就て」とあり、續いて“保井春海が星圖成るの後ち百餘年、文政九年、西1816年（1826年の誤か？）石坂常堅、欽定儀象考成表に據りて、星を六等に分ち星圖を造れり、上規北極、下規南極各々直徑八寸五分、赤道帶堅一尺三寸五分、横三尺七寸五分、圖の下段に、元楊子、星紀五以下十二宮并に二十四節を配記し、別に二十四氣節七十二候に於ける晨昏夜半中星表を附せり。題して方圓星圖と曰ふ。常堅備後福山の人。

右附記して以て參考に供す。圖は省略に従ふ”

とある。又、

東京科學博物館、昭和九年發行「江戸時代の科學」天文資料解説の部、七五頁に、

“方圓星圖、文政九年（1826）石坂常堅著

長さ二米二十糎許り、幅五十四糎、宿星を記す事審かである。（尾島碩宥氏藏）”

とある。

即ち、今より116年前に當り作製された物で、薄い日本紙に木版で印刷してあり、常堅の朱印が押捺してある。寸法は、上記文獻の記す所と五分、即ち一糎内外の差異があるが、同一物なる事は疑ないと思はれる。

星の等級を六等星迄分類してゐるが、一、二等星は現代と同様であり、三、四、五、六等星は相當相違してゐる。星座名は支那風の物で、各々の星を結ぶ線も現代と異なる所が多い。圖中、銀河を“天漢”と稱し、可也正確に記入してあるのは日本の古星圖としては、上記の光度記入と並んで珍しいものである。

北極星圖が詳細なのに比べて、南極星圖が極めて簡單であるのは必然であろう。圖中の説明は中々詳しく、“江戸北極出地三十六度”等、種々記入があるが、今は省略させて頂く。何れ、暇を見て、寫眞撮影、又は、模寫したいと思つてゐるので、完成次第御送り致したいと思ひます。簡單であります、御報告迄。（昭和十七年二月十三日）